

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
29	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol metabolism, alcohol intake, and breast cancer risk: a sister-set analysis using the Breast Cancer Family Registr アルコール代謝、飲酒および乳癌リスク a sister-set analysis using the Breast Cancer Family Registr	
<b>執筆者</b>	
Terry MB, Knight JA, Zablotska L, Wang Q, John EM, Andrulis IL, Senie RT, Daly M, Ozelik H, Briollais L, Santella RM.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Breast Cancer Res Treat. 2007 Dec;106(2):281-8.	
<b>キーワード</b>	
乳癌、アルコール、アルコール脱水化酵素	
<b>要旨</b>	
<p>中等量の飲酒は一貫して乳癌リスクの中等度 (30-50%) の増加と関連があるされるが、個々人が飲酒による悪影響を持つか否かについては不確定である。個々人はアルコール脱水化酵素 (ADH) の遺伝的違いを通してアルコール代謝の能力が違う。ADH は約 80%のエタノールのアセトアルデヒドへの酸化を触媒し、一つの発癌物質である。Breast Cancer Family Registry(n=811 姉妹)からのデータを使い、我々は乳癌を患った女性が飲酒とアルコール代謝 (ADH1B と ADH1C の多型性によって測定) の点において乳癌を患っていないその姉妹と違うか否かについて検討した。飲酒もアルコール代謝を行う ADH1B と ADH1C の遺伝型も乳癌リスクと関連がなかった。しかし ADH1B と ADH1C においてそれぞれ 19%と 42%の姉妹しか不一致を認めなかった。それは遺伝型と飲酒の違いを説明するには少なすぎた。</p>	